



平成 28 年度

IR 室年次活動報告書

東北大学インスティテューショナル・
リサーチ室 (IR 室)

ごあいさつ

平成 28 年 1 月 1 日、歴史ある片平キャンパス本部棟に新しい組織「インスティテューショナル・リサーチ室 (IR 室)」がスタートしました。IR 室は、東北大学の特定事業組織として、教育、研究その他の本学の諸活動に関する多様なデータの効果的かつ効率的な集約及び分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的として活動しています。

現在日本の高等教育が置かれた厳しい環境のなかで、エビデンスに基づいた戦略的な大学経営が求められるようになっており、東北大学も例外ではありません。しかしながら同時に、東北大学は以前から大学のビジョンや計画を明示し、教育活動・研究活動・管理運営など多様な場面でデータを集め、分析・評価することに意欲的に取り組んできた歴史があります。

東北大学 IR 室の役割は、一からデータを集め、分析するというよりも、大学のさまざまな場所で多様な構成員がデータを集め、自らの視点で分析し、よりよい大学のあり方について提言していけるような環境作りを支援し、その情報が適切な形で大学のリーダーに届くことで有効な大学ガバナンスが実現するように調整を行っていくという、インスティテューショナル・エフェクティブネスという役割を強く意識して行くことが求められていると思います。

このためには、学内のさまざまな構成員の方々に協力をいただくことが大切であり、また、IR 室としても総長をはじめとする東北大学のリーダーとともに、多様な構成員の方々のニーズに直接・間接的に応えることを心がけていこうと考えています。また、このためには、世界の IR 関係者と協力しながら、先進的なあり方を常に探索していくことも大切です。

小規模な組織としてスタートしましたが、さまざまな方々との協力・連携を通じて東北大学および世界の大学の改革を支援するような大きな動きに貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

東北大学インスティテューショナル・リサーチ室長・教授
総長特別補佐 (IR 総括担当)
米澤 彰純

1. 東北大学における IR 体制の整備

平成 28 年度においては、IR 室の体制整備を進めました。本年度、室長以下専任スタッフ 3 名が着任し、2 室を本部棟内に確保、事業に必要なパソコン・機器などを整備しました。

IR 室の運営・活動の方針は、植木俊哉 IR 担当理事を座長とする IR 運営協議会との協議を通じて定められています。そして、東北大学の IR 活動を活性化する上で特に大きな役割を果たすのが、IR 連携ワーキンググループの設置とその活動です。

東北大学の IR は、学内にすでに存在する IR 活動とその担当者との横の連携・協力を進めることで、全学として IR 活動の有効性を高めるとともに、IR 室がこれらの連携を基盤に総長とその補佐体制とに直接つながることで、東北大学の IR の諸活動が全学としての意思決定への貢献を強めていくことを目的に設計されています。同連携ワーキンググループは、平成 28 年度中に 8 回開催され、各部門での IR 活動に関する情報交換、IR 活動推進のための学内外の情報収集、国内外からのゲストスピーカー（山形大学、オランダ・トゥウェンテ大学）を招いての勉強会などを実施してきました。

2. データの整備とモニタリング

東北大学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的として、本学の諸活動に関する多様なデータの集約・分析を進めました。なお、これらの多くの業務は、IR 連携ワーキンググループをはじめとする学内の様々な方々との連携・協力のもとに全学の業務として進められました。

(1) 中期目標・中期計画に掲げる数値目標に関わる調査の実施

平成 28 年度より 6 年間にわたる第 3 期中期目標・中期計画の期間が開始され、そのなかで様々な数値目標が掲げられています。4 年目終了後の暫定評価にむけて、関係部署に調査を行い、数値目標の可視化・共有化を図りました。

(2) 大学の国際的評価に関わるデータ・情報の整備・収集・分析

東北大学は里見ビジョンにおいて「ワールドクラスへの飛躍」を掲げています。また、スーパーグローバル大学事業、研究大学強化促進事業等にも採択され、大学の諸活動に関しての国際的な評価を求められる機会も多くなっています。IR 室では、国際大学ランキングをはじめとする大学の国際的評価に関わる多様なデータ・情報の整備・収集・分析を行い、運営企画会議など学内会議等で報告・情報提供を行ってきました。また、U-multirank に関わる専門家を招いて意見交換を行ったり、Times Higher Education の日本大学ランキングの開始にあたり専門家としての意見を提供し、米澤室長による署名記事が Times Higher Education アジア大学ランキング特集号に掲載されるなど、これら国際的の大学評価に対して双方向の形で関係作りを進めました。

(3) 東北大学国際戦略策定に向けたデータの収集・分析

東北大学では、スーパーグローバル大学創成支援事業のもとで東北大学グローバルイニシアティブ構想による国際連携・国際化を推進しています。国際アドバイザリーボードなどの意見も取り入れながら、より効果的に国際連携・国際化を推進していくための戦略策定作業が今年度行われました。この過程において、IR 室は、関係部署と連携・協力し、国際交流、学生・研究者の受入れ・送り出しに関するデータの整備・分析を行いました。

(4) 東北大学の戦略的な大学経営の推進のためのデータの整備・分析

東北大学 IR 室では、従来学内に分散していた東北大学の戦略的な大学経営の推進のために必要な基礎データを統合し、ファクトブックなどの形で提供する体制を整えることを、平成 29 年度の主要な活動目標に掲げることにしました。IR 室では本年度、学内外にどのような情報があり、どのような形で活用されているかの探索から始め、どのような形でデータを蓄積・整備するのが妥当かを検討、平成 29 年度から本格的に学内への提供を進めることを目標に、データの整備・分析を進めています。

3. 国内外の高等教育、IR の動向調査・交流

(1) ワールドクラス大学へのベンチマーク、ベスト・プラクティスに関する調査

東北大学がワールドクラスへの飛躍を果たし、世界のトップ大学と伍していくためには、これらの大学がどのような環境・組織体制のもとで戦略的・機能的に活動しているのかを知る必要があります。IR 室では、本年度に行われた全学的なイニシアティブの下でのベンチマーク、ベスト・プラクティスの調査・分析に中心的に関わり、内部報告書をまとめました。その成果は、東北大学による指定国立大学への申請など、大学の将来的指針作りに活用されると同時に、その過程でも英文資料作成に中心的に関わるなどの貢献をしました。

(2) 国内外の IR 活動に関わる動向調査・交流

東北大学における IR 活動についての整備および IR 室自体の立ち上げのため、国内外で IR 活動がどのように行われているかについて、調査、交流等を進めてきました。具体的には、平成 28 年 1 月の IR 室発足以降、九州大学や佐賀大学などへの訪問調査、山形大学などから講師の先生を招聘してお話を伺うなどの他、大学情報・機関調査研究集会(MJIR)、大学評価コンソーシアム、日本高等教育学会など、IR をテーマ・課題に掲げる様々なネットワークの集会に参加し、国内の先進事例についての動向把握・交流に努めました。また、植木俊哉理事(IR 担当)を団長として European Higher Education Society (EAIR: 欧州)に参加、Ellen Hazelkorn 会長と将来的な協力について意見交換を行いました。また、Association for Institutional Research (AIR: 米国)、Australasian Association for Institutional Research (AAIR: オセアニア)にも参加しました。さらに、米澤彰純室長が、台湾校務研究専門協会(Taiwan Association for Institutional Research: TAIR)主催の国際シンポジウムに招かれ、アジアと日本の IR の動向と課題についての講演を行いました。

(3) 国内外の高等教育の動向に関する情報・データの収集・提供

IR 室では、このほか、高等教育の動向について、情報・データの収集・提供を行ってきました。東北大学が中心的な役割を果たす東北支部を含む IDE 大学協会の活動への参加、国内外の諸学会、情報交換会への参加などを通じ、学内外、国内外の幅広い関係者と情報・データの収集・提供およびこれにかかわる協力・連携を行ってきました。米澤室長は、香港比較教育学会より招待され、アジアの高等教育研究の将来的方向性に関わる基調講演を行いました。

4. 到達点・課題と今後の方針

(1)到達点1:国際性を意識した IR 活動のあり方の提示

東北大学 IR 室は、発足当初から、東北大学がかかげる「ワールドクラスへの飛躍」を念頭に、国際性を意識した IR 活動のあり方を日本の先進事例として提示することを目指してきました。今年度、国際的な大学ベンチマーク、国際大学ランキングの分析、国際戦略策定のためのデータの収集・整備などについて、全学のさまざまな関係者と連携・協力しながら一定の貢献を果たし、国際性を意識した IR 活動のひとつのあり方を提示できたことは、本年度の大きな到達点であったと自己評価しています。

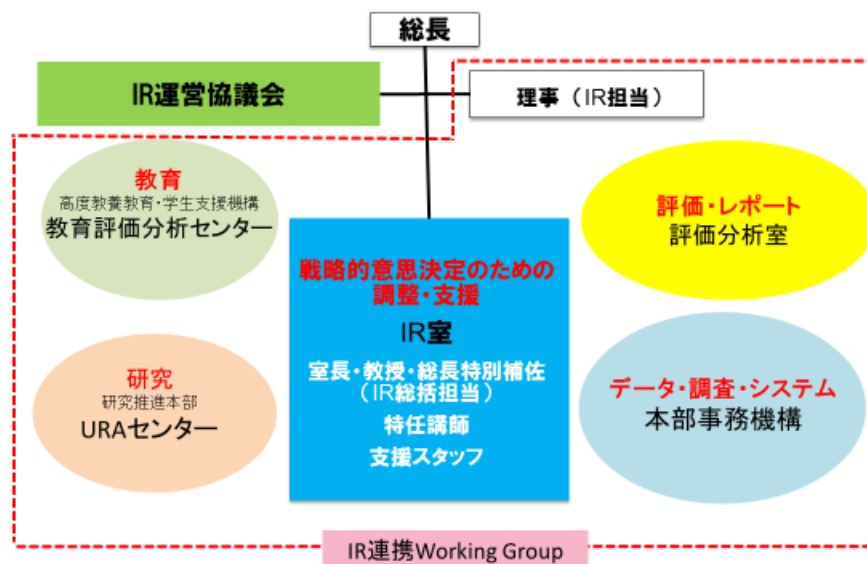
(2)到達点2:学内に分散する IR 関連のデータ・活動の間の連携・接続への着手

東北大学は、従前よりアクションプランやビジョンを全学的に整備し、また、評価分析室、URA センター、教育評価分析センターをはじめとする多様な関係部署においてそれぞれ大学の諸活動を分析し、エビデンスに基づく意思決定を進めてきたという点で「分散型 IR」の一形態としては実績があるといえます。新設の IR 室は、これら全学に分散したデータと IR 諸活動の間に「横串を刺す」ようなあり方を探索してきました。これを通じ、大学内のどこにどのようなデータがあり、どのように管理され、分析され、活用されているかについて一定程度の把握が進んだと同時に、IR 活動を担う関係者間のコミュニケーションの場や機会が増加しました。

(3)課題と今後の方針:大学の戦略的運営に資する学内外のデータの有効な形での提供

東北大学 IR 室の活動は始まったばかりであり、まだ、達成できた点よりも、将来に向けての課題が山積しているのが現状と自己評価しています。特に、学内の IR 諸活動の連携を進めたり、大学の戦略的な意思決定に対する情報・データの提供を有効に進めるためには、よりわかりやすい形で、それぞれのニーズに適した情報・データをタイムリー、かつ効率的に提供していく必要があります。以上のことを意識しながら、平成 29 年度には、東北大学の戦略・運営の鍵となるようなデータが概観できるファクトブックを作成しようと計画しています。このファクトブック作成を手始めとして、東北大学全体としての有効な IR 活動、情報・データ整備に IR 室として貢献していきたいと考えています。

付 1. 東北大学 IR 室と連携組織図・平成 28 年度スタッフ名簿



- 米澤 彰純 YONEZAWA, Akiyoshi 室長・教授・総長特別補佐 (IR 総括担当)
- 大野 林太郎 OHNO Rintaro 特任講師
- 及川由美子 OIKAWA Yumiko 支援スタッフ

付 2. 東北大学インスティテューショナル・リサーチ室設置要綱

(趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人東北大学インスティテューショナル・リサーチ室の設置並びにその組織及び運営について定めるものとする。

(設置)

第2条 国立大学法人東北大学(以下「本学」という。)に、インスティテューショナル・リサーチ室(以下「IR室」という。)を置く。

(目的)

第3条 IR室は、本学の特定事業組織として、教育、研究その他の本学の諸活動に関する多様なデータの効果的かつ効率的な集約及び分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的とする。

(職及び職員)

第4条 IR室に、次の職及び職員を置く。室長

教授 准教授 講師 助教

技術職員

その他の職員

(室長)

第5条 室長は、IR室の業務を掌理する。

2 室長は、総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

3 室長の任期は、2年(理事又は副学長にあつては、その任期)とし、再任を妨げない。

4 前項の規定にかかわらず、任期の始期が4月1日でない室長に係る任期は、当該始期から1年を経過した日の属する年度の末日までの期間とする。

(運営協議会)

第6条 IR室に、本学のインスティテューショナル・リサーチに関する事項について意見を求めるため、運営協議会を置く。

(運営協議会の組織)

第7条 運営協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。一 総長が指名する理事又は副学長 若干人

二 室長

三 高度教養教育・学生支援機構の教授又は准教授 若干人

四 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンターの特任教授又は特任准教授 若干人

五 評価分析室の室員 若干人

六 総務企画部長、教育・学生支援部長、財務部長及び研究推進部長 七 総長室主任経営企画スタッフ、その他委員長が必要と認めた者 若干人

(運営協議会の委員長)

第8条 運営協議会に委員長を置き、前条第1号に掲げる委員のうちから総長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、運営協議会の会務を掌理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(委嘱)

第9条 第7条第1号、第3号から第5号まで及び第8号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第10条 第7条第3号、第4号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(特定事項の調査検討等)

第11条 IR室に、特定事項について専門的に調査検討等を行うため、必要な組織を置くことができる。

(事務)

第12条 IR室の事務については、総長室において処理する。

(雑則)

第13条 この要項に定めるもののほか、IR室の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成28年1月1日から施行する。

付 3. 東北大学運営協議会名簿及び会合実績(平成 28 年度)

- 植木俊哉 委員長 理事(総務・国際展開・事務統括担当) 第 7 条第 1 号委員 ※IR 担当(管理・運営)理事
- 花輪公雄 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当) 第 7 条第 1 号委員 ※高度教養教育・学生支援機構長
- 伊藤貞嘉 理事(研究担当) 第 7 条第 1 号委員 ※URA センター長
- 大槻達也 理事(人事労務・環境 安全 担当) 第 7 条第 1 号委員
- 兵頭英治 副学長(法務コンプライアンス担当) 第 7 条第 1 号委員 ※評価分析室長
- 米澤彰純 IR室教授 第 7 条第 2 号委員 ※IR 室長
- 杉本和弘 高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター教授 第 7 条第 3 号委員
- 串本剛 高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター准教授 第 7 条第 3 号委員
- 山谷知行 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター特 任教授 第 7 条第 4 号委員
- 清家弘史 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター特任准教授 第 7 条第 4 号委員
- 曾根秀昭 評価分析室員 第 7 条第 5 号委員
- 齋藤仁 総務企画部長 第 7 条第 6 号委員
- 佐藤義幸 教育・学生支援部長 第 7 条第 6 号委員
- 伊豆仁志 財務部長 第 7 条第 6 号委員
- 石田秀明 研究推進部長 第 7 条第 6 号委員
- 菊田克也 総長室主任経営企画ス タ ッ プ 第 7 条第 7 号委員

第 1 回 平成 28 年 4 月 6 日(水)14:00-15:00 片平本部 3 階第 1 会議室
本年度の IR 室の体制・活動の方針について協議を行った。

付 4. 東北大学 IR 連携ワーキンググループ名簿及び会合実績（平成 28 年度）

米澤彰純	IR室教授 ※IR 室長
杉本和弘	高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター教授
串本剛	高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター准教授
清家弘史	研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター特任准教授
Hansen Marc	研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター特任助教
船田正幸	法務課長
菊田克也	総長室主任経営企画スタッフ
坂本直也	総長室経営企画スタッフ
小野一俊	総長室経営企画スタッフ

※ 会合には、必要に応じ、植木理事・IR 運営協議会委員長他、上記以外の関係者が出席した。

第 1 回(5 月 23 日)

総長室が進めた SGU の資料に関する調査・分析、現在進めている第 3 期中期目標・中期計画について総長室・IR 室より話題提供、議論を行った。

第 2 回(6 月 17 日)

教育評価分析センター(以下 CIR)より、教員の教育活動に関する調査、学生調査、学務情報システムとの連携に関して話題提供、議論を行った。併せて、米国 IR 学会(AIR) Forum への出張報告を行った。

第 3 回(7 月 29 日)

URA センターより大学ランキングとその研究に関わる対策について話題提供、議論を行った。

第 4 回(9 月 15 日)

評価分析室より、「東北大学情報データベース」及び「部局評価」について話題提供、その活用方法等について議論を行った。併せて欧州 IR 学会(EAIR)についての報告を行った。

第 5 回(10 月 24 日)

指定国立大学法人 TF で進められているベンチマーク作業計画について話題提供、その実施・活用のあり方等について議論を行った。

第 6 回(11 月 28 日)

エンロールメント・マネジメントの可能性について、山形大学次世代形成・評価開発機構の浅野茂教授・遠藤宏司教授を外部有識者の招聘を行い、議論を行った。

第7回(12月22日)

ダッシュボード等、東北大学としての大学経営情報の可視化・有効活用のあり方について話題提供、議論を行った。

第8回(3月3日)

オランダ・トゥウェンテ大学高等教育政策研究所上級研究員 Don F. Westerheijden 博士を外部講師としてお迎えし、U-Multirank の概要と動向について議論を行った。また、本年度のまとめと来年度の活動の方向性についても議論を行った。

付 5. スタッフの活動記録(IR 活動に関連する講演・発表・出版物など)

米澤彰純室長・教授

- 【招待講演】Transformation of Japan's higher education in response to global challenges
日本学術振興会ボンオフィス第 21 回日独学術シンポジウム「高等教育 - 課題と最近の動向」、平成 28 年 5 月 20 日、於オルデンブルグ大学(ドイツ)
- 【招待パネリスト】日本の高等教育の国際貢献について Higher Education Forum for Africa, Asia, and Latin America HEFAALA International Symposium、平成 28 年 8 月 18-20 日於ダーバン(南アフリカ)
- 【招待講演】アジアにおける IR と国際協力の可能性、台湾校務研究專業協会(台湾 IR 協会)・台湾高等教育評鑑中心基金会主催 International Symposium and Forum: Higher Education Institutional Research and Quality Assurance、平成 28 年 11 月 18-19 日於台北(台湾)
- 【寄稿】Asia University Rankings 2017: THE Japan ranking will show insularity must end, *Times Higher Education* 平成 29 年 3 月 15 日
- 【基調講演】Mobility, formation and development of the academic profession in East Asia: A trial of global studies in higher education 平成 29 年 3 月 19-20 日、香港比較教育学会(香港教育大学、中国)

IR 関係国際会議等への参加

- Association of Institutional Research (AIR、米国): 米澤彰純教授、川面きよ教育評価分析センター特任講師
- European Higher Education Society (EAIR、欧州): 植木俊哉理事、米澤彰純教授、清家弘文 URA センター特任准教授、小野一俊総長室経営企画スタッフ
- Australasian Association for Institutional Research (AAIR、豪州): 大野林太郎特任講師

2017 年（平成 29 年）3 月

東北大学 インスティテューショナル・リサーチ室

〒980-8577 仙台市青葉区片平 2 丁目 1 番 1 号 TEL 022-217-5919

oir@grp.tohoku.ac.jp

<http://oir.tohoku.ac.jp/>